

目次	会務報告 [第9回大会 (千葉県立中央博物館, 2010年7月10 - 11日) 報告 (その2)]	393
	大会に参加して / 下野 優子	393
	地衣学会に参加して / 石井 史織	394
	日本地衣学会評議員会議事録 / 木下 薫 (庶務幹事)	394
	日本地衣学会第9回大会総会報告 / 木下 薫 (庶務幹事)	396

会務報告 *Report of the JSL Activities*

第9回大会 (千葉県立中央博物館, 2010年7月10-11日) 報告 (その2)

Report of the JSL 9th Annual Meeting at Chiba, 10 - 11 July 2010 (part 2)

大会に参加して

/ 下野 優子 (関西大学大学院1年)

My Impression for the JSL 9th Annual Meeting at Chiba, July 2010 / by Shimono Y.

大会を通して、とても充実し面白かったというのが率直な感想です。私は去年の年次大会にも参加させてもらっていて、この学会がアットホームな雰囲気だということを感じていました。ですが自分が発表するとなると、学会発表自体が初めてということもあり、千葉へ行く前から不安と期待と緊張でいっぱいでした。講演や発表が始まると、地衣の研究分野が幅広く、改めて地衣の奥深さを実感しました。また懇親会でも多くの先生方や学生の方ともたくさんお話をすることで有意義な時間を過ごせ、また同時に次の日の発表に向けて良い緊張感ともなりました。発表では緊張もしましたが時間内に話すこ

とができてホッとしたことを覚えています。また色々な質問を頂き、来年の大会に向けてより研究を進めていけるよう努力したいと改めて感じました。休憩時間には、千葉のお土産なども頂いたり、博物館で行われている「海藻」の展示も見に行ったりで、とても楽しかったです。(帰りにこの千葉のお土産を千葉駅近くで買って帰りました。)3日目の分類ワークショップにも参加しましたが、普段分類をする経験がない私にとってとても興味深いものでした。3日間はあっという間でしたが本当に楽しく過ごす事ができて、また地衣への関心もより一層強くなりとても嬉しく思います。最後になりましたが、運営をしてくださった原田先生をはじめ博物館のスタッフの方々、本当にありがとうございました。

地衣学会に参加して

／石井史織（千葉大学・緑地生態学研究室・博士前期過程1年）

My Impression for the JSL 9th Annual Meeting at Chiba, July 2010 / by Ishii S.

私は大学では生態学を専攻しています。大学には地衣類を扱っている先生がいらっしゃるらないので、今年度から千葉県立中央博物館の原田浩先生のところで地衣類の勉強をさせていただいています。そのため、地衣類についてお話できる相手も機会も多くありません。そのような環境にいる私にとって地衣学会はとても新鮮で刺激的でした。

一般講演会では形態学的特徴による分類に関する発表や地衣成分に関する発表、培養に関する発表、構造解析に関する発表など様々な分野での発表がありました。普段そういった分野に触れることのない地衣類初心者の私にはなかなか難しい内容もありましたが、様々な視点からアプローチしている人たちと学会を通して交流でき、とても勉強になったと共に、地衣類に対する興味がよりいっそう大きくなりました。

私の印象に残った発表の一つは地衣類の展示方法についての発表で、博物館での企画展で地衣類を展示した時のお話でした。その展示会では湿潤状態の標本を作製していました。

私が地衣類を初めて知ったのも博物館でしたが、その展示では小さな写真と文章のみで地衣類がいったいどういった生き物なのか伝わってきませんでした。しかし、湿潤状態の標本があることで、色が鮮やかでやわらかく、印象に残りやすくなります。そしてなにより、一目瞭然でわかりやすいです。湿潤状態の標本を作るためには精製水とグリセリンのみで手に入りやすいので、私もチャレンジしてみようと思っています。

さらに、学会後にはワークショップも開かれとても充実した3日間を過ごすことができました。一般の人にとって地衣類を勉強できるような場は多くないので、こういったワークショップなどが定期的にあると学会以外でも交流を深め、情報を交換することもでき、ぜひこういう場が増えればと思っています。

日本地衣学会評議員会議事録 / 木下 薫（庶務幹事）

Report of the JSL Councilors' Meeting, at Chiba, July 2010

日時 2010年7月10日10:00-12:00

場所 千葉県立中央博物館会議室

参加者：（議長）高橋奏恵、（評議員）河原秀久、川又明徳、小峰正史、竹仲由希子、原光二郎（南佳典より委任状）、（会長）高橋邦夫、（役員）木下薫、木下靖浩、（編集長）原田浩。

内容

I. 2009年度事業報告

1. 会員数には、会費を支払っていない会員を含んでいる。

会員数は2010年6月25日現在：199名(一般120, 学生40, 海外一般18, 海外学生1, 有功1, 団体4, 名誉15)昨年度より11名の増加であった。

2. 以下の報告が承認された。

(1) 主催大会

① 日本地衣学会第8回大会・シンポジウム（ニューズレター No. 97）

京都学園大学（京都府亀岡市）、7月11日～12日（参加者：58名）

演題数：一般講演、ミニシンポジウム、公開特別講演あわせて22題

懇親会はキャンパス内の食堂で開催され、53名が参加した。

(2) 学会誌の刊行

① 学会誌 *Lichenology* 第8巻1号(7 / 7), 2号

(12 / 30)

② 日本地衣学会Newsletter 発行, No. 94~100

(3) 委員会報告

(3-1) 地域活性化委員会

① 青空地衣教室

- 1) 第29回青空地衣教室 6月7日実施, 神奈川県足柄下郡箱根町 箱根九頭竜の森 (参加者: 21名)
- 2) 第30回青空地衣教室 7月13日実施, 京都府南丹市美山町 京都大学芦生研究林 (参加者: 18名)
- 3) 第31回青空地衣教室 8月8日実施, 秋田県 男鹿半島 (参加者: 18名)
- 4) 第8回 観察会2009年9月12, 13日開催, 栃木県日光市足尾銀山平・日光戦場ヶ原

② ワークショップ (秋田県立大学) 8月7日~11日 (参加者: 7名)

(3-2) 学術交流委員会, 自然史学会連合, 日本分類学会連合 対応, 日本植物学会 対応せず。

II. 2009年度決算報告・監査報告

報告は承認された。

III. 入・退会報告

入会について承認された。

IV. 2010年度事業計画

1. 主催大会, シンポジウム, プロジェクト

- (1) 日本地衣学会第9回大会 (千葉) 大会ホームページ参照
- (2) 日本の地衣フロア解明プロジェクト (「地衣分類ワークショップ」)

2. 印刷物発行 (編集委員会)

(1) 学会誌 Lichenology 第9巻1号(7月予定), 2号(12月予定)

(2) 日本地衣学会Newsletter発行, No. 101~104

3. 委員会報告

(1) 地域活性化委員会

① 青空地衣教室

- 1) 第32回青空地衣教室 4月17日実施, 千葉県市原市 市原市民の森 (参加者: 16名)
- 2) 第33回青空地衣教室 5月22日実施, 神奈川県足柄下郡箱根町 箱根九頭竜の森 参加者: 19名
- 3) 第34回青空地衣教室 8月8日開催予定, 秋田県

北秋田市 森吉山

4) 学会主催観察会 10月2, 3日開催予定 (案内はHP). 島根県益田市匹見峡, 広島県北広島町臥龍山

5) 以下随時開催

② ワークショップ (秋田県立大学) 8月7日~11日開催予定

(2) 学術交流委員会, 自然史学会連合, 日本分類学会連合 対応

(3) ホームページ運営委員会

V. 2010年度予算案

予算案は承認された。

VI. 協議事項

1. 学会事務局についての内規の追加

(1) 参加者全員 (会長, 評議員8名) の賛成により可決され, 7月10日より実施することが決定した。 (これは, 学会費運営のための郵便局の口座開設のために会則中に事務局の住所等の記載が必要となったもの)

学会事務局についての内規

(1) 本内規は, 日本地衣学会 (以降, 学会と称す) の会則第18条に定める学会の事務局に関するものである。

(2) 事務局を下記の場所に置く。

〒204-8588

東京都清瀬市野塩2-522-1

明治薬科大学 生薬学教室

(3) 事務局は下記の役員で構成される。

会長 高橋邦夫

庶務幹事 木下薫

会計幹事 木下靖浩

(4) この内規は評議員会において過半数の同意を得て改定できる。

本内規は2010年7月10日より実施する。

2. 会員の実態数の把握と除名

(1) 学生会員は卒業後, 連絡が取れないケースが多い。他にも連絡が取れない会員が居る。

(2) 連絡が取れない会員には, Lichenology送付時に変更・退会届を同封するとともに, HPIに変更・退会届の書式を掲載し, 届出を促す。

(3) 学生会員には学会費の滞納ルールを厳しく適用す

- る。
- (4) 上記を行うことで、会員の実態数把握を図る。
3. 第10回大会は、棚橋先生の御了解を前提として、神戸薬科大学で開催する(評議委員会後に、棚橋先生の御了解を頂いた)。
4. 第10回大会は、記念大会として海外からの招待講演を計画することとし、学会会計から20万円を補助することとする。
5. 評議員の選抜ルールについて、継続審議する。今後、評議員が各委員会の委員長を兼ねないように、委員長を集める部会で今後も審議していくことが提案された。

6. その他、将来的に、ニュースレター編集委員は現在の編集委員会から独立させてはどうかとの意見が出され、また、これをホームページ運営委員会と合体させてはどうかという案も出され、継続審議していくこととなった。
7. 学術奨励賞を小杉真貴子氏に授与する。これは、小杉真貴子氏が今年3月に「地衣およびその共生光合成生物の乾燥耐性機構と光阻害防御機構についての研究」で兵庫県立大学大学院博士後期課程を修了、学位を取得され、日本地衣学会学術奨励賞に推挙されたことを受け、授与することが決定されたものである。口頭発表終了後、賞状と副賞をお渡しした。

日本地衣学会第9回大会総会報告 / 木下 薫 (庶務幹事)

Report of the General meeting at 9th Annual Meeting of the Japanese Society for Lichenology, 10 July 2010 / Kinoshita K.

日本地衣学会第9回大会総会を2010年7月10日、千葉県立中央博物館開催にて開催いたしました。日本地衣学会新会長の高橋邦夫から挨拶が有り、引き続き木下幹事が当日午前中に開催された評議委員会で報告されたこと、審議、承認されたことについて報告いたしました。数名の方よりご質問を受け、答えさせていただきました。また、次回第10回記念大会開催を神戸薬科大学の棚橋

孝雄先生をお願いすることが決まり、ご挨拶をいただきました。さらに、小杉真貴子氏に日本地衣学会学術奨励賞を授与することを報告いたしました。小杉氏の口頭発表終了後に表彰式を行い、賞状と副賞を授与いたしました。以上、皆さまのご協力を得まして滞りなく総会を終了することが出来ました。

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 107, pp. 393-396: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 30 November 2010.

日本地衣学会ニュースレター 107号

発行日：2010年 11月 30日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒203-0021 東京都清瀬市野塩 2-522-1

明治薬科大学 生薬学教室内

©2010 日本地衣学会 (© 2010 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。